

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

焼津福文共通信第66号

「焼津福祉文化共創研究会」事務局

〒425-0044 焼津市石津向町 15-17

百の木デイサービス石津内

Tel.: 054-623-3665 Fax.: 054-656-3731

編集委員 望月隆仁 河野恵介 原崎洋一 原崎幸子 平田厚

今年度の活動テーマ：「活動5年間の調査研究事業の実績から“ご近所福祉”を検証する」 ●1月定例研究会で、令和4年度(4年目) 「ホッとする安心した地域づくりその意識と実態調査」を検証

2024年度は、「活動5年間の調査研究事業実績から、“ご近所福祉”を検証する。」を活動テーマに掲げ、これまで実施した「調査の検証」について、毎月の定例研究会で議論をしている。今回は、1月定例研究会(令和7年1月11日開催)で議論した、本会4年目の「ホッとする安心した地域づくりその意識と実態調査」(高齢者対象)を紹介する。

●令和4年度「ホッとする安心した地域づくりその意識と実態調査」に取り組む

本会結成4年目は、公益財団法人さわやか福祉財団助成事業により、「ホッとする安心した地域づくりその意識と実態調査」を実施した。

令和4年10月1日～31日の間、港地域づくり推進会管内(港第14・23自治会)の20歳以上の大人を対象に、29の設問を回答いただいた。主な調査項目は、「基本属性」「地域との関わりの意識」「地域との関わりの実態」「地域参加の動向」「地域環境」「提言」。

調査実施に当たり、各自治会役員の皆さんをはじめ、港地区民生委員児童委員協議会、地域実践者等の協力により、345名(回答率95.8%)の管内の皆さんから回答をいただいた。11月～1月にかけて、会員による集計及び分析作業に取り組み、「調査報告書」としてまとめることが出来た。

この調査結果を、令和5年2月28日、石津コミュニティ防災センターにおいて「基調報告：調査の意義」「調査報告：調査結果から何が見えたか」「円卓トーク：私のご近所を語る」をプログラムにして、「公開型調査報告研修会」を開催した。当日は、民生委員、自治会役員、地域住民、福祉施設職員、行政職員、社協職員、市会議員、マスコミ等40名が参加された。

●「4年目の調査検証」考察概要

1. 「プロセス」重視から取り組んだ高齢者対象の調査であった。
2. 会員自ら高齢者に向き合う、「共生社会」を学ぶ調査であった。
3. 「協働」による地域づくりへの問題提起を地域社会に実施できた。
4. 「共生社会」をキーワードに「参加する福祉」を探ることが出来た。
5. 「地域が見える化」し、地域課題を市民が共有する問題提起をした。
6. 高齢者(管内の高齢者315名の回答)の生活状況、家庭・家族との関わり、地域との関わり(意識と実態)、地域参加、地域環境からホッとする豊かな地域づくりを拓く、「地域共生社会の仕組み検証」の考察提言をした。



*2025.1.3 旧小川港海辺のカモメ

●地域ぐるみの居場所をめざして.....

高齢者が望む、地域の居場所の運営(環境)の全体的な回答からの考察は、「語れる、対等で自由な環境が保障されていること」「参加者が主体であり、上下の関係がなく対等な関係が維持されていること」「居場所が住民をつなぎ、共助関係を維持できる」「地縁団体組織で継続的な運営基盤が保障されていること」で、「ポリティイ主体、福祉施設等の依存」の回答は低い。「居場所」の課題として大きく取り上げられるのは、男性が居場所に来ない、と話題になる。今回の回答でも、女性の方が男性より柔軟で自由な環境を求めている傾向が伺えた。本来、真の居場所は「家庭・家族」が原点であるとも言われている。しかしながら、「家庭・家族」の居場所から、地域を組織化し「地域を家庭化する機能」により、いかにして生活圏域において「居場所」をつくり上げることが出来るか、住民それぞれの立場で課題を解決することができるかを考えなければならないことを提起したい。

いずれにせよ「居場所とは」「今なぜ、居場所か」を改めて問い質していきたい。



協働団体：静岡福祉文化を考える会の「2024年度赤い羽根助成事業：若者発ご近所福祉かるたによるご近所福祉検証事業」に、本会は、今年度の活動を協働事業として、下記の事業内容に取り組んだ。

- ①本事業を円滑に取り組むために設置した、「共創社会実現研究会」(4月から12月まで8回開催)に出席し、意見を出し合った。
- ②「若者発ご近所福祉かるた活用状況調査」に関わった。
- ③「若者発ご近所福祉かるた」の配布提供先の協議に関わった。
- ④「若者発ご近所福祉かるた活用事例集」の編集に関わった。



シリーズ⑩ 若者発 ご近所福祉かるたで学ぶ

このコーナーでは、平成27年度・令和3年度に、協働団体：静岡福祉文化を考える会が、赤い羽根共同募金地域福祉広域助成事業により、世代を超えて身近な地域社会を学ぶ、地域福祉教育教材として作成した「若者発 ご近所福祉かるた」を本誌第57号から「シリーズ」で紹介している。今回は「つ」「て」 「絵札」は、漫画家 法月理栄様が作画。

*かるた等の問い合わせは、事務局まで



昔から今日まで、最も身近な情報伝達手段の「回覧板」。内容を家族みんなで理解し合いお隣さんに一声をかけて早く廻しましょう。



子どもは、家族や地域を構成する立派な一員です。「地域の子どもを地域で育む」地域環境づくりに日頃から努力していきましょう。

焼津福祉文化共創研究会事務局日誌拝見(1/11~2/15)

- 1/11 第70回定例研究会開催
- 1/18 焼津市ボランティア連絡協議会代表者会出席
- 2/08 焼津福祉文化共創研究会通信第66号編集・発行
- 2/01 焼津福祉文化共創研究会通信第66号メール送信・配布作業
- 2/15 第71回定例研究会開催(予定)



研究会QRコード 考える会QRコード